

平成18(2006)年度前期

# 生徒による授業評価

## 結果報告

県立横浜旭陵高等学校

「生徒による授業評価」研究グループ

# 目次

- 1．調査の趣旨
- 2．経過
- 3．生徒・保護者向けプリント
- 4．評価シート
- 5．実施の実際
- 6．数値的な集約
- 7．生徒のコメント集約
- 8．教科ごとの意見
- 9．後期に向けて

## 1. 調査の趣旨

次の4項目を設定した。

- 組織(科目、教科・系、年次、学校)の運営とカリキュラムの編成、改善に役立てる
- 生徒が主体的に授業に取り組もうとする姿勢を育む
- 生徒と教員の認識のギャップを埋め信頼関係をより一層深める
- 校内研修等をとおして、教員の指導力の向上を図る

## 2. 経過

### << 県の説明会 >>

平成18(2006)年5月25日に県立総合教育センターにて平成18年度「生徒による授業評価」研究協議会が実施された。以下その概要。

1. 昨年度は「すべての学校で」実施した。今年度は「すべての教科・科目で」実施していただく。生徒が受講したすべての教科科目を生徒自身が評価する。生徒にとっては評価しない科目はない状態にする。教科ごとの統計を取ることが目的ではないので生徒を抽出したり授業を選抜してのサンプリングはしない。

2. 「総合的な学習の時間」を含めて評価する。

3. 評価項目は8項目で前年度と変わらない。

4. すべての教科科目で実施することになるので、県としては、LHR等による一括調査をモデルとして示す。マークスキャンを用いて、生徒にマークさせてすべての教科を一枚で記入させてしまう。ページスキャナを使って、教育センター作成のソフトを用いて集計する。コメント欄はもうけない。

5. 実施時期は7月と12月、県への提出時期は2月を予定しており昨年と変わらない。

6. 調査後、授業改善をすることになるが責任を一人に押しつけず、教科全体・学校全体で取り組む。

7. 黒板を使って教員が伝達するだけの授業については、できるだけ生徒が授業に積極的に参加できる方向に今後の改善を求めたい。

8. 昨年は責任を持った回答をさせるため78%の学校が記名方式を採用した。

<<実施時期>>

7月と11月に実施することとした。

おおよその日程は次の通りである。

時期	担当	内容
4/中	研究開発グループ	概要検討
		実施内容等細則検討
5/下	企画会議・職員会議	細則説明
	教科(担当者)	授業で趣旨等説明
6/中	研究開発グループ	評価用紙細則検討
		保護者向通知文書検討・作成
		LHR等で生徒・保護者に周知
6/下	企画会議・職員会議	評価用紙説明
7/上	教科(担当者)	授業で評価用紙実施・回収
	生徒	評価用紙に回答・自己評価
7/中～	研究開発グループ	評価回答を集計
夏季休業中	研究開発グループ	集計結果を各教科に配布
9/上	教科(担当者)	教科・教科担当者で対応法検討
9/下	研究開発グループ	教科での検討結果等の集約
	企画会議・職員会議	分析結果報告
10/上	研究開発グループ	中間報告冊子の検討
10/下～	企画会議・職員会議	中間報告冊子の報告
	研究開発グループ	各教科での研究授業・事後研修会
		LHR等で中間報告の配布
広報	HPで公開	
11/下	教科(担当者)	授業で評価用紙実施・回収
	生徒	質問用紙に回答・自己評価
12/中～	研究開発グループ	回答を分析
1/中～		最終まとめ作成・公表
2/上	企画会議・職員会議	最終まとめ結果報告
2/下	研究開発グループ	県に報告
		LHR等で最終まとめの配布
	広報	HPで公開

<< 調査対象 >>

昨年度に引き続き、すべての教科・科目・講座で実施することとする。生徒が受講したすべての教科科目を生徒自身が評価することになる。生徒にとっては評価しない科目はない状態にする。県の指定通り教科ごとの統計を取ることが目的ではないので生徒を抽出したり授業を選抜してのサンプリングはしないこととした。

「総合的な学習の時間」は昨年は教科横断的に行っていたため調査が不可能だったが、今年度は「キャリアの時間」として設定しているため、調査可能となっている。

<< 評価項目策定の課程 >>

昨年度は初年度ということで、本校独自の評価項目で実施した。しかし年度末に県に提出する様式が定まり、評価項目も統一する必要が出てきた。

今年度は県の指定している項目

大項目	中項目
授業内容	授業の準備 教材の工夫
	授業の充実感
	授業の進め方
	生徒主体の授業の工夫
指導方法	説明の分かり易さ
	生徒への接し方
	学習への取組
自分自身の取り組み状況	態度・姿勢

を元に、本校の評価項目を考え作成した。

県の指定した中項目	本校が設定した項目
授業の準備 教材の工夫	先生は教え方や教材を工夫しよく準備している
授業の充実感	授業に充実感・達成感がある
授業の進め方	授業は系統立てて（順序を追って）進められている
生徒主体の授業の工夫	先生が教えるだけでなく、生徒が主体となった授業展開も工夫されている
説明の分かり易さ	先生の説明や指示は明らかですっきりしている
生徒への接し方	先生は生徒一人ひとりと接し、生徒の発言も大切にしながら授業を進めている
学習への取組	自分は授業に対して興味関心を持って積極的に取り組み努力している
態度・姿勢	自分は授業に遅刻せず、他の迷惑にならないようマナーを守って授業に取り組んでいる

^ 更に、本校独自の項目として、評価方法とその伝達状況を聞くこととした。

（質問項目）

・先生から成績の評価方法がしっかりと示され、それは納得のいくものである

以上 9 項目を本校の評価項目とした。

更に自由記載欄をもうけ、生徒の意見を聞くこととした。

（質問項目）

この授業について思うことや、自分の取り組みについての反省、又改善してほしいことがあれば記入してください。

## <<記名式の実施>>

昨年までは、記名しないでアンケートという形で実施していた。生徒の自由記載欄を利用して、授業改善に当てていた。多種多様な意見が出る反面集約に時間がかかり、個人的な意見も多く参考にはならない部分もあった。

今年度は責任ある意見を求め、意見や提案のあるものに直接対応するため記名方式とした。県教育委員会が推薦していることもあり、他校でも昨年は8割の学校が記名方式としている。

しかし、他県では無記名方式を全行で採用している県もあり、検討の余地がある。

## <<スキャナーの利用>>

昨年は7月期は手作業による作業を行って、夏期休業中のすべてを使って集計した。

12月期はスキャナーによるデータ読み取りを実施したが、操作は担当が一人で行ったため、やはり集計に手間取った。今年度は、複数枚を連続して読み込めるページ・スキャナーを利用することとした。本校にはページ・スキャナーが少なくとも3台はあり、読み取りには支障がないことが確認された。各教科担当がページ・スキャナーを使用してデータを取り込んでもらうこととした。

スキャナー利用による利点は、作業の効率化である。反面、マークミスした生徒のデータをうまく取り込めないと言う欠点もある。ここでは、マークセンスで読み切れない個々の生徒の声についてはコメントで対応し、全体的な割合が簡単に算出できるスキャナー方式を採用した。

また、コメント欄の集計は各教科担当が手作業でコンピュータに入力することとなった。

## <<読み取りデータの解析>>

教育センターが作成したソフトに一部欠陥が見つかり、8月は連絡を取り合って、ソフトを修正してもらった。そのために2週間ほどを要した。

生徒・保護者向けに通知書を作成し配布した。

平成18(2006)年6月16日

保護者の皆様へ

県立横浜旭陵高等学校  
校長 萬俣 好明

## 「生徒による授業評価」実施のお知らせ

向暑の候、皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。また、日ごろより本校の教育活動に対しましてご理解とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

さて、県立学校一斉の取り組みとして、本校も昨年度に引き続き「生徒による授業評価」を実施することになりました。この趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

### ■ 趣 旨

生徒の視点に立った授業改善を進めるとともに、生徒が主体的に授業に取り組もうとする姿勢を育み、生徒と教員との信頼関係をより一層深め、校内研修等をとおして、教員の指導力の向上を図り、生徒の学習意欲がさらに増すことを目的として「生徒による授業評価」を実施します。

### ■ 実施時期

年2回(7、11月)を予定しています。

### ■ 実施方法

生徒全員に対し、それぞれの授業においてマークシート等の形式で行います。

### ■ 取り扱い

生徒から回収したデータは分析・改善のために使用します。

生徒個人のプライバシーを十分尊重し、所定の期間保管したあとは速やかに調査用紙を廃棄いたします。

この評価内容や記述内容が生徒個人の教科の成績に影響することはありません。

### ■ 活用方法

授業評価の結果を分析したあと、各教科において改善策を検討したうえ、学校全体で協議し、授業改善に向けての対応策をまとめます。

### ■ 内容報告

学校評議員会で報告・検討いたします。

生徒の皆様には、結果・分析と具体的な改善策などを直接教員から説明します。

保護者の皆様には、保護者会、授業公開日、年次通信、web(ホームページ)等の機会を活用し、集計結果の報告や授業改善の方向性についての説明を行います。

また昨年度の状況報告は、公式HP上で公開しておりますのでご覧ください。

県立横浜旭陵高等学校公式 web URL <http://www.y-kyokuryo-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

### ■ その他

ご質問やご意見がありましたら、担当までご連絡ください。

問い合わせ先

県立横浜旭陵高等学校 教頭 杉坂郁子

電話 045-953-1004

FAX 045-951-3151

E-mail : [info-y-kyokuryo-h@pen-kanagawa.ed.jp](mailto:info-y-kyokuryo-h@pen-kanagawa.ed.jp)

# 2006年度授業評価シート

回答欄の 0 を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。[可：●、●/ 不可：○、○、○、○]

番号						氏名	
----	--	--	--	--	--	----	--

I 教科・科目名

1 教科コード (0) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)

2 系コード (0) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)

3 科目コード (0) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)

II 今日まで行った授業について質問します。  
 もっとも当てはまる番号を塗りつぶしてください。  
 評価内容や記述内容があなたの成績に影響することはありません。

④:非常に当てはまる ③:まあまあ当てはまる ②:あまり当てはまらない ①:全く当てはまらない

1 先生は教え方や教材を工夫し、よく準備をしている (4) (3) (2) (1)

2 授業に充実感・達成感がある (4) (3) (2) (1)

3 授業は系統立てて(順序を追って)進められている (4) (3) (2) (1)

4 先生が教えるだけでなく、生徒が主体となった授業展開も工夫されている (4) (3) (2) (1)

5 先生の説明や指示は明らかですっきりしている (4) (3) (2) (1)

6 先生は生徒一人ひとりと接し、生徒の発言も大切にしながら授業を進めている (4) (3) (2) (1)

7 自分は授業に対して興味関心を持って積極的に取り組み努力している (4) (3) (2) (1)

8 自分は授業に遅刻せず、他の迷惑にならないようマナーを守って授業に取り組んでいる (4) (3) (2) (1)

9 先生から成績の評価方法がしっかりと示され、それは納得のいくものである (4) (3) (2) (1)

III この授業について思うことや、自分の取り組みについての反省、又改善してほしいことがあれば記入してください。

## 5. 実施の実際

7月3日(月)から7日(金)で実施したが、授業展開上実施できない科目が一部見られた。そのため翌週をその科目の調査に当てた。

また、2週とも授業実施の予定がない授業も存在したため、LHRの時間を借りて、担任指導による一括記入も行った。このため、生徒にとっては「評価したいけど、できない」ということはなくなった。

## 6. 数値的な集約

非常に当てはまるを「4」

まあまあ当てはまるを「3」

あまり当てはまらない「2」

全く当てはまらない「1」

として、人数を勘案して平均を算出してみる。

	2006年7月	2005年12月	2005年7月
授業の準備、教材の工夫	3.31	3.46	3.26
充実感	3.16	3.16	3.12
授業の進め方	3.34	3.37	
生徒主体の授業の工夫	3.11	3.08	
説明の分かり易さ	3.22	3.23	3.15
生徒への接し方	3.15	3.17	
学習への取り組み	3.21	3.21	
態度姿勢	3.32	3.17	
評価とその説明	3.28	3.27	

一番高い評価を得たのは、「授業の進め方」である。具体的な質問形式は「授業は系統立てて順序を追って進められている」で、次に高い「授業の準備、教材の工夫」と関連して、教員は授業の準備をしっかりとおり、授業の進め方も満足している生徒が多いことを表している。

反対に低い評価だったのは、「生徒主体の授業の工夫」である。この項目が低いことは全県での集計でも明らかになっており、現行教育全般の問題でもある。しかし、指導要領によれば、生徒一人ひとりの「生きる力」を身につけさせるためには、ただ教員の言葉を聞いてノートをとって一日が終わる授業ではなく、積極的に参加できる形態を教員サイドから作ることが求められている。座学教科といわれる主要5教科は、長年の教授法が確立しており、それがかえってこの問題の弊害になっているともいえる。本校では少人数講座が実現していることや90分授業で行っていることから、さらなる生徒主体の授業の工夫が必要といえる。

次に昨年12月との比較をしてみる。あまり大きな差は見つけれないがその中に「態度姿勢」の項目に有為の差が見える。「自分は授業に遅刻せず、他の迷惑にならないようマナーを守って授業に取り組んでいる」という項目の回答だが、確かに普段の授業は真剣に取り組む姿勢が目立つようになった。これは大変良いことと思う。これにより、更に授業に対しての要望が具体的に現れているといえる。

<<全体の割合>>

	2006年度			昨年
授業の準備、教材の工夫	4	2203	42.0%	56.1%
	3	2516	47.9%	36.1%
	2	461	8.8%	5.8%
	1	70	1.3%	2.0%
充実感	4	1894	36.9%	43.4%
	3	2313	45.1%	39.7%
	2	775	15.1%	12.9%
	1	150	2.9%	3.9%
授業の進め方	4	2275	44.7%	49.8%
	3	2359	46.4%	39.9%
	2	380	7.5%	8.2%
	1	72	1.4%	2.1%
生徒主体の授業の工夫	4	1836	36.2%	37.7%
	3	2128	42.0%	38.7%
	2	926	18.3%	18.0%
	1	182	3.6%	5.6%
説明の分かり易さ	4	1989	39.5%	44.7%
	3	2263	45.0%	38.3%
	2	664	13.2%	13.0%
	1	118	2.3%	4.1%
生徒への接し方	4	1864	37.3%	43.8%
	3	2164	43.4%	34.7%
	2	812	16.3%	16.3%
	1	151	3.0%	5.2%
学習への取り組み	4	1924	39.3%	42.7%
	3	2195	44.8%	39.4%
	2	682	13.9%	14.3%
	1	99	2.0%	3.6%
態度姿勢	4	2402	49.5%	44.8%
	3	1733	35.7%	32.8%
	2	608	12.5%	16.8%
	1	114	2.3%	5.6%
評価とその説明	4	1863	39.3%	45.0%
	3	2428	51.3%	42.1%
	2	376	7.9%	10.3%
	1	69	1.5%	2.6%

教科別の集計

数値は%												
		総合	国語	地歴	公民	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	情報
授業の準備、教材の工夫	4	30	32	55	33	27	44	44	56	40	44	50
	3	48	58	41	53	54	48	47	38	52	47	46
	2	20	8	4	12	15	7	8	5	7	8	4
	1	2	2	0	1	5	1	1	1	1	0	0
充実感	4	25	25	43	29	26	32	45	53	37	38	44
	3	40	52	44	42	46	50	41	37	44	43	49
	2	27	18	10	22	20	14	10	7	15	16	6
	1	7	3	1	3	6	3	2	2	2	2	1
授業の進め方	4	29	39	55	34	40	48	45	52	51	40	46
	3	50	52	40	51	48	45	46	39	41	47	50
	2	16	7	3	10	8	5	6	8	6	9	3
	1	3	2	1	1	4	1	1	1	1	1	0
生徒主体の授業の工夫	4	26	20	26	29	20	30	50	55	46	41	44
	3	39	48	48	46	49	43	37	36	40	42	39
	2	29	26	24	22	24	23	11	7	12	14	15
	1	6	6	3	3	7	5	2	1	2	3	2
説明の分かり易さ	4	28	28	55	31	24	39	45	52	36	38	49
	3	48	53	40	44	48	48	42	40	47	46	42
	2	21	17	5	21	22	13	10	6	14	14	8
	1	3	2	1	4	7	1	2	2	2	2	1
生徒への接し方	4	25	25	28	34	26	36	43	57	46	41	45
	3	47	48	46	49	49	41	40	37	40	44	41
	2	23	23	24	15	19	19	14	5	11	13	12
	1	5	4	2	2	7	4	2	1	2	1	2
学習への取組	4	32	29	41	29	29	35	46	55	37	44	49
	3	46	50	46	47	47	46	42	38	47	43	43
	2	16	19	12	21	21	18	10	6	15	11	8
	1	6	3	1	2	3	1	2	1	1	2	0
態度姿勢	4	43	44	56	51	53	47	48	52	48	53	52
	3	38	37	29	34	33	38	37	37	35	35	38
	2	16	16	12	12	11	14	12	10	14	10	9
	1	3	4	3	3	3	2	2	1	2	2	1
評価とその説明	4	31	33	47	39	32	38	41	49	39	41	40
	3	49	57	49	52	56	53	49	44	53	51	53
	2	17	9	3	8	8	7	9	5	6	8	8
	1	3	1	1	1	3	2	1	1	2	1	0

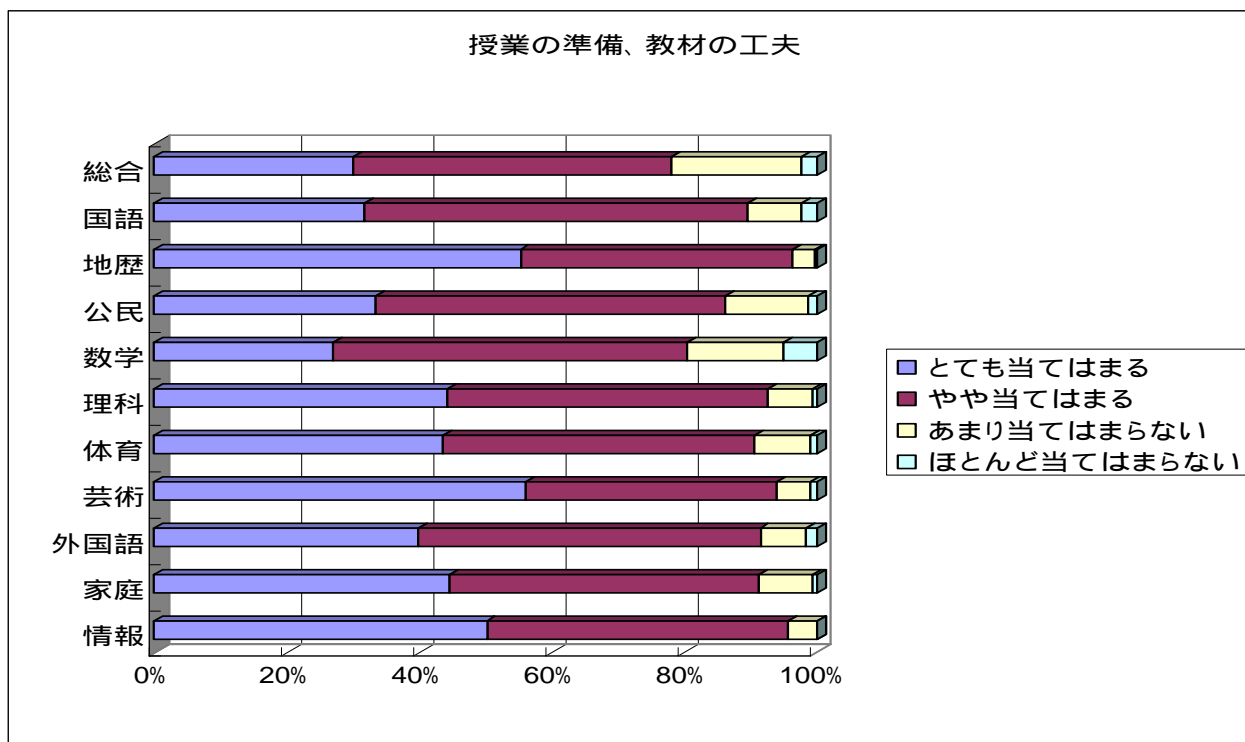
## <<全教科について>>

評価が高かったのは、情報や芸術を中心とした実技教科である。この設定された項目は授業にどれだけ自分が関わることができたかをはかるようにできており、高くなるのは当然という部分もある。芸術は必履修教科ではあるが自分の好きな分野を選択できるので、最初の動機付けはできている。情報は現代社会を生きるために必要な内容であり、他教科を学ぶためにも必要な教科となっている。そのため意識が高いのではないだろうか。座学で比較的高い評価を得たのは、外国語と地歴である。外国語には国際系の科目も集計されており、生徒の興味関心に基づいた授業展開が可能になっていることがあげられる。

反対に評価が低かったのは「総合的な学習の時間」と「数学」である。「総合的な学習の時間」は平成18(2006)年度は「キャリアの時間」として実施した。他教科に比べ若干低めの評価となっている。1年生に当たる5期生は「自分の将来を考える」を年間テーマにすえ、ワークシートを用いて授業を展開してきた。しかし高校に入学して間もないということもあり、まだまだ自分の将来や進路について考えることができない生徒が多く見受けられる。このため意欲的に取り組めない部分がある。2年生に当たる4期生は、「地域研究」をテーマとした。自分の参加する修学旅行の方面を中心として、調べ学習を行った。これについても自分で調べなければ何も始まらないので、自発的に動けない生徒は作業が手に付かないこともあった。3年生に当たる3期生は「自分の進路を考える」ことをテーマにして2単位前期集中で実施した。しかし様々な進路方向を考える生徒たちの集団で、一つの内容でまとめることは難しく、生徒によってはやることが見つからないこともあった。内容は当然生徒個人個人に必要なことばかりなのでさらなる自覚を促すことで、教科への興味を向けさせたい。

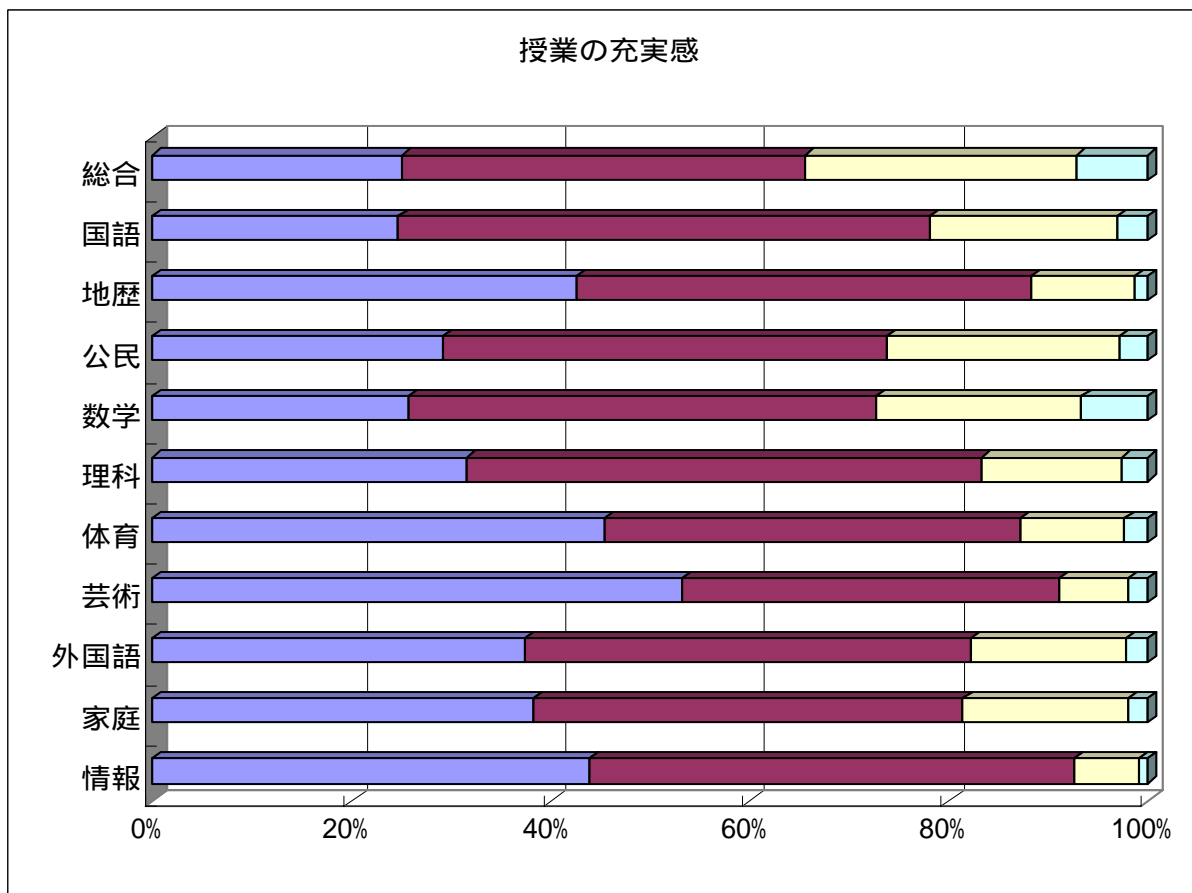
次に評価の低かったのは「数学」である。必履修科目の中では得意不得意の差が大きく、「自分は数学が不得意である」「いくらやってもわからない」と決めつけている生徒がおおい。教育方法も多少の固定化が見られ、なかなか改善しない点が見られる。生徒の意識改革と、教材の創意工夫、生徒参加の授業形態を考えることでの対処が必要と考えられる。

「先生は教え方や教材を工夫しよく準備している」



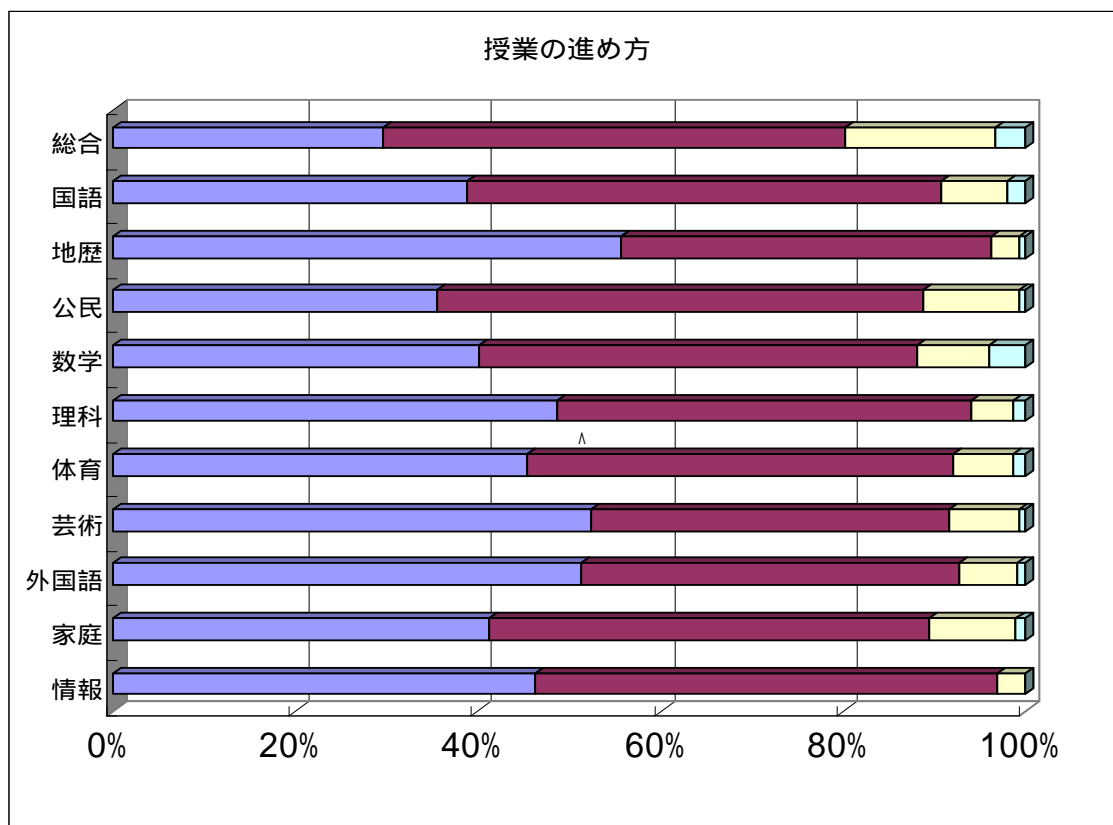
地歴・情報・芸術が高い評価を得た。

「授業に充実感・達成感がある」



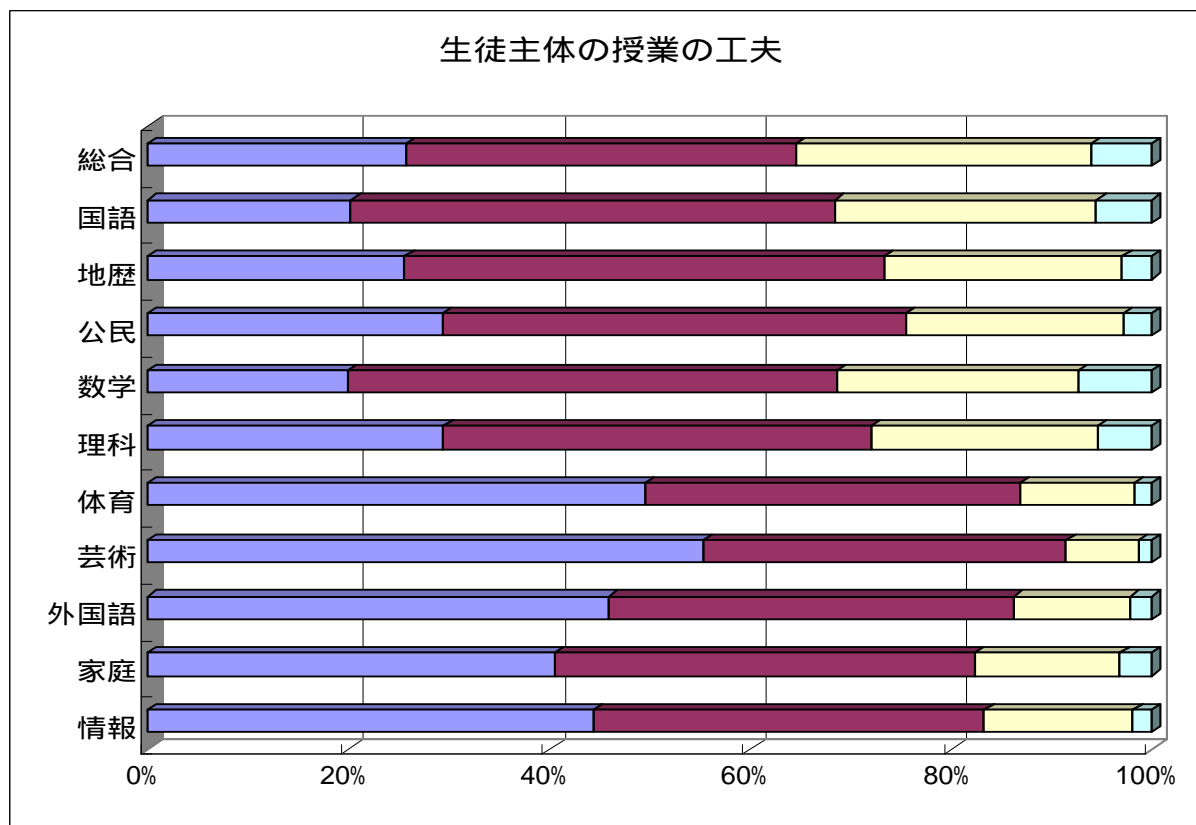
地歴・情報・芸術が高い評価を得た。

「授業は系統立てて（順序を追って）進められている」



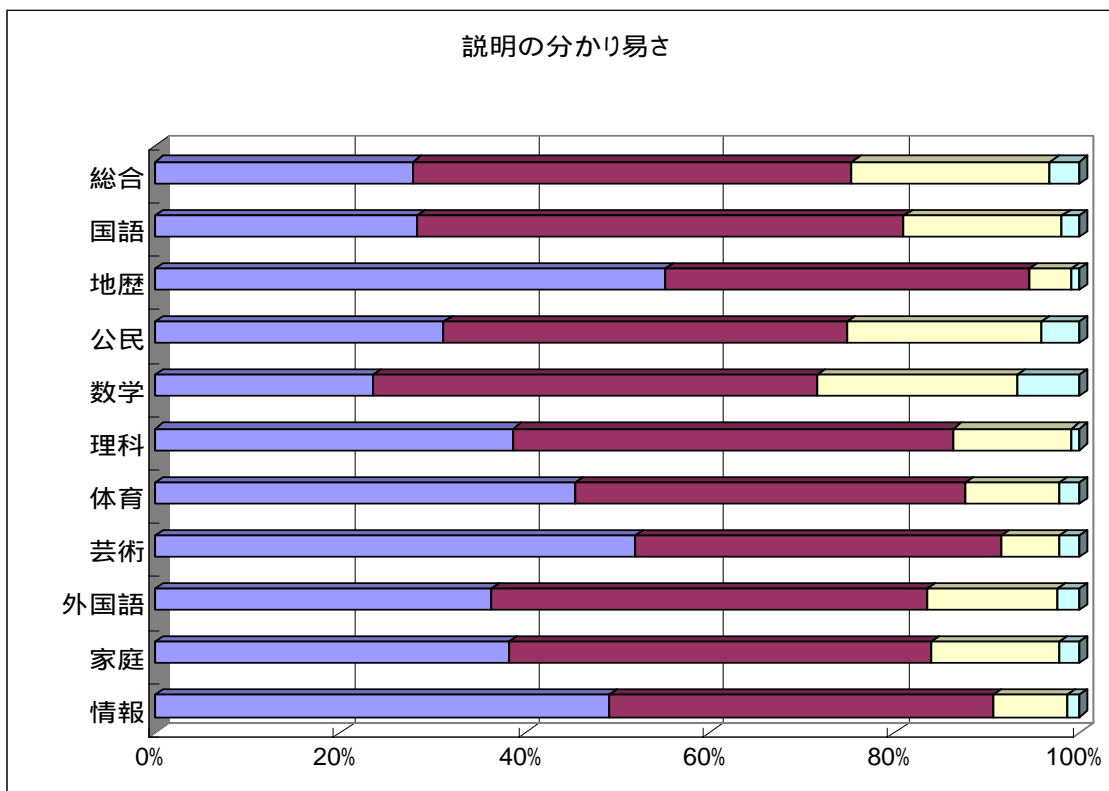
地歴・情報・理科が高い評価を得た。

「先生が教えるだけでなく、生徒が主体となった授業展開も工夫されている」



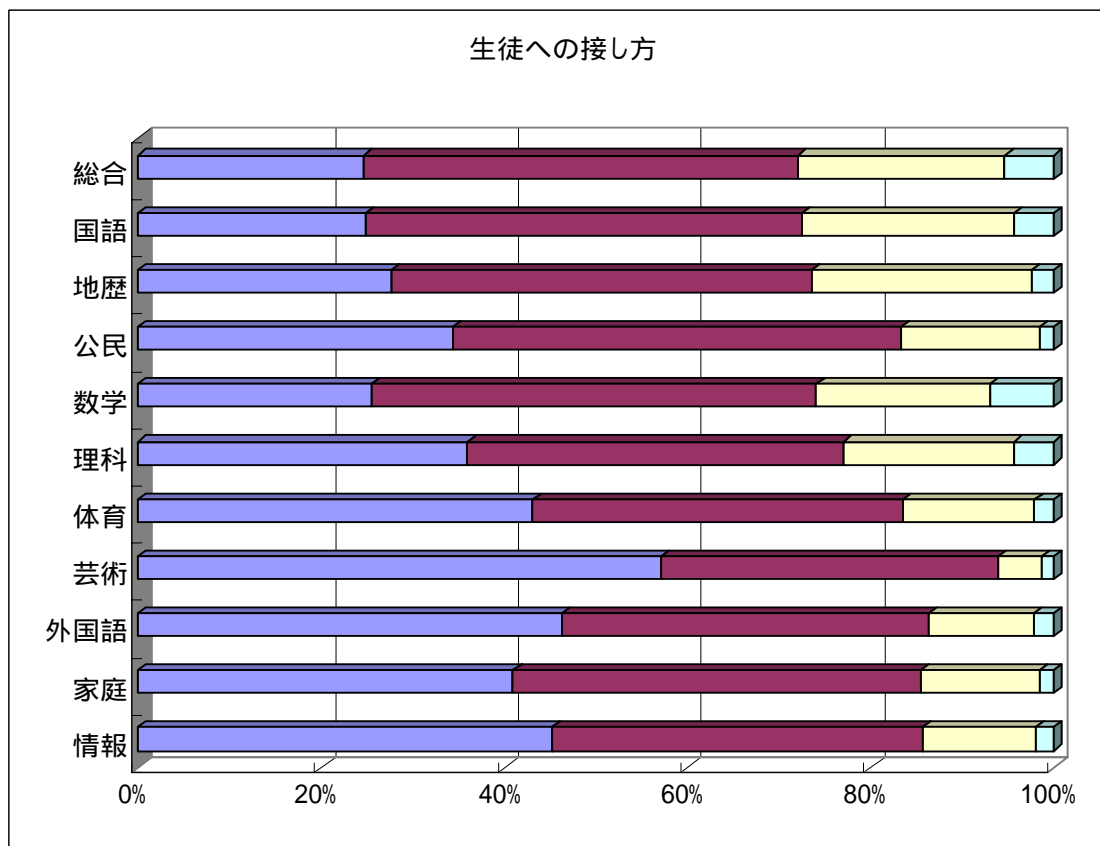
芸術・体育・外国語が高い評価を得た

「先生の説明や指示は明らかですっきりしている」



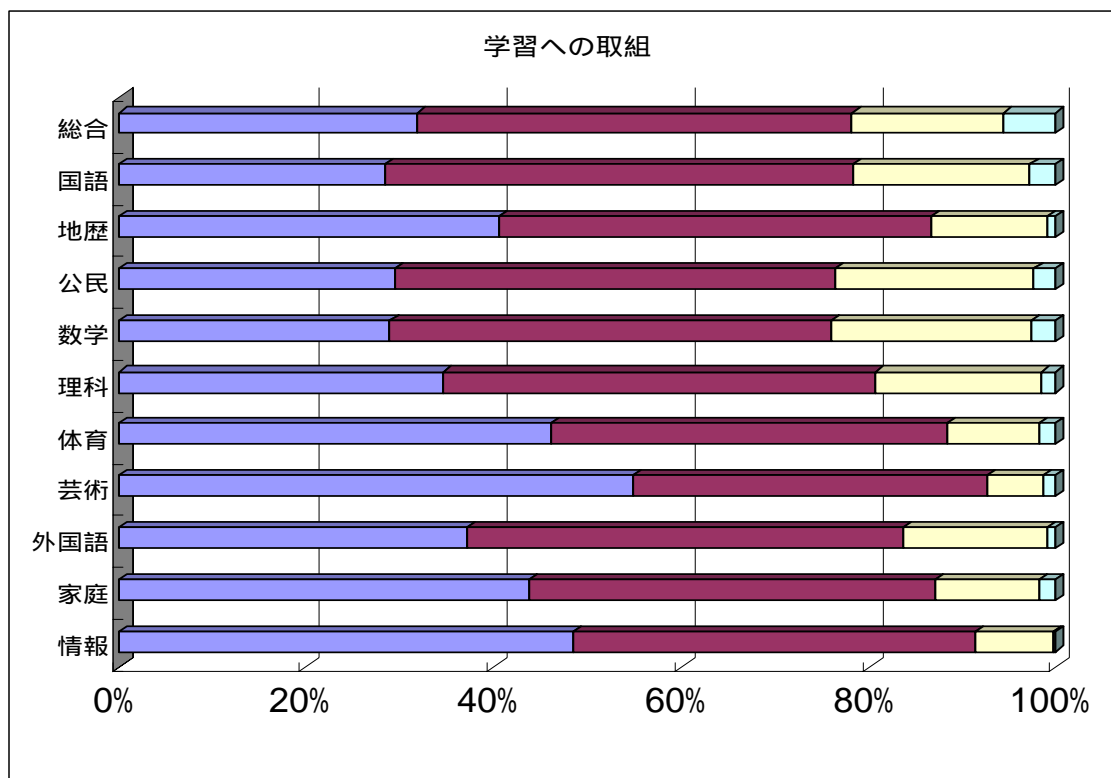
地歴・情報・芸術が高い評価を得た。

「先生は生徒一人ひとりと接し、生徒の発言も大切にしながら授業を進めている」

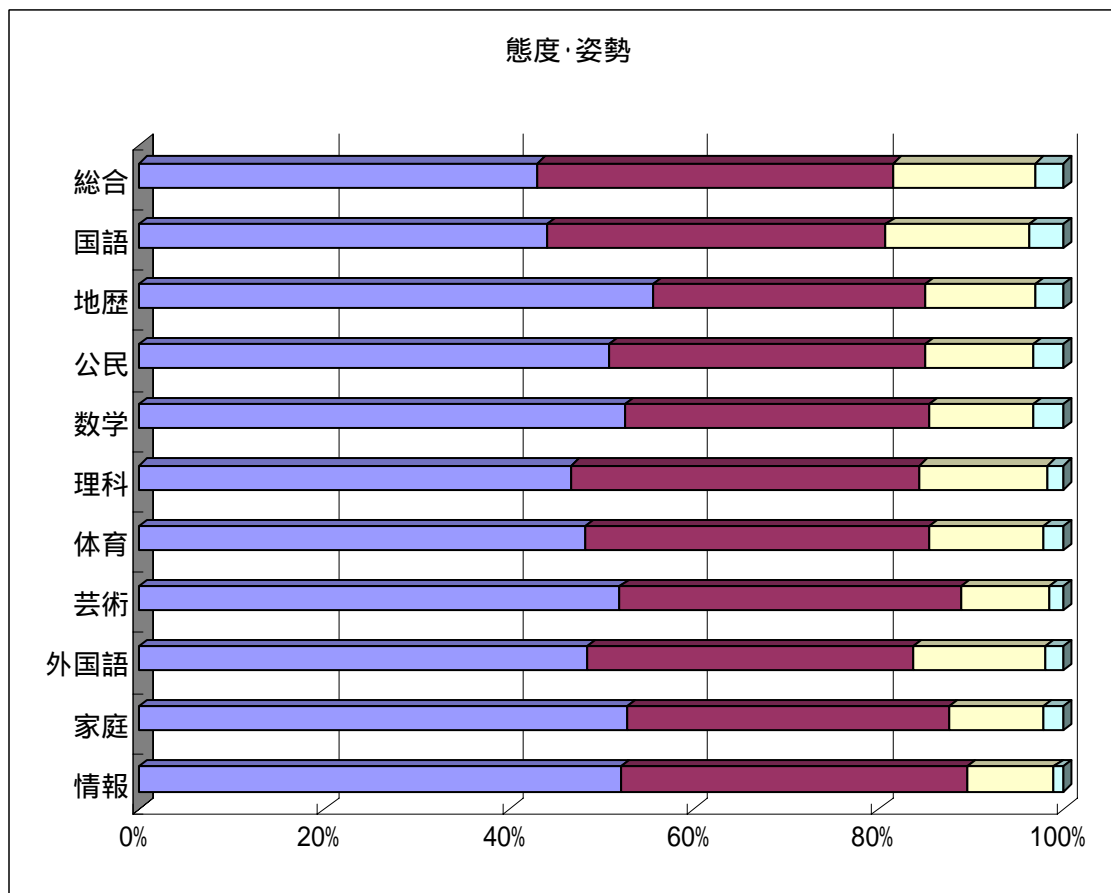


芸術・外国語・家庭が高い評価を得た。

「自分は授業に対して興味関心を持って積極的に取り組み努力している」

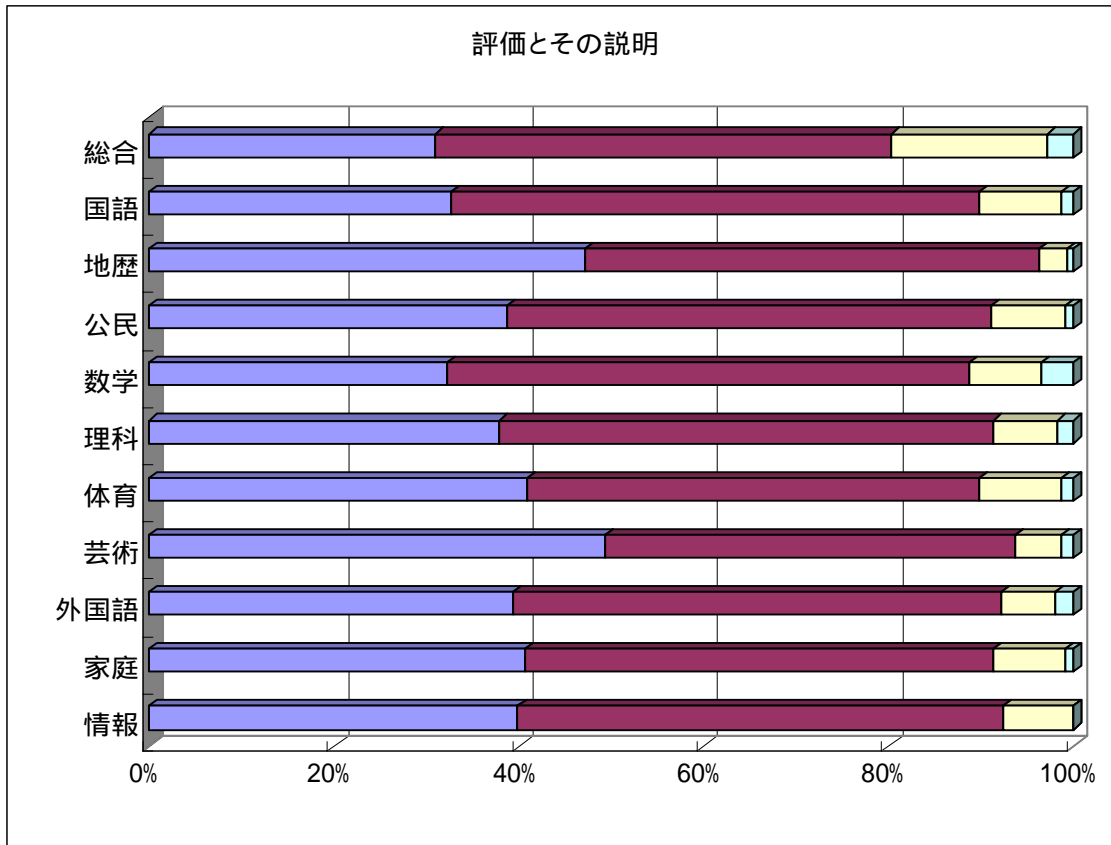


「自分は授業に遅刻せず、他の迷惑にならないようマナーを守って授業に取り組んでいる」



情報・芸術・家庭が高い評価を得た。

「先生から成績の評価方法がしっかりと示され、それは納得のいくものである」



地歴・芸術が高い評価を得た。

## 7. 生徒からのコメント

総合的な学習の時間 = 進路についての学習 (3期生)

- ・ 人数が多いから分けてやるべき。
- ・ もう少し積極的に取り組めば良かった。(1名)

総合的な学習の時間 = 修学旅行についての学習 (4期生)

- ・ 資料がちょい少なかった。調べるの難い。交通手段調べにくい。
- ・ もう少ししっかり修学旅行のことを教えてほしいです。

総合的な学習の時間 (5期生)

- ・ 自分の将来をしっかりと見つめられる時間だから好き
- ・ 進路に向けて、しっかり勉強が出来ました。この調子のままで過ごして行きたいです。
- ・ 時間が短く達成感があまりない。
- ・ まじめに受けられる授業だ。
- ・ 1年生の時点で将来のことが決まっている人はいないと思う。
- ・ 毎回、反省用紙にしっかり書けた。説明もよくわかる。
- ・ 1回1回プリントなので分かりやすい。
- ・ 感想を書くのが大変。
- ・ あまり意欲的に取り組めない。
- ・ 先生の説明がわかりやすい2名
- ・ 周りの生徒を静かにさせてほしい
- ・ いろいろな学校について調べたいと思う。
- ・ 将来について熱心に考えた。
- ・ 授業が丁寧でわかりやすく楽しい

国語

- ・ 板書でどれが大切か説明してほしい。
- ・ 個別指導してほしい。
- ・ 1回の授業が重い。
- ・ 漢字の小テストが良い。
- ・ ディベートをやってみたい。
- ・ 楽しく分かりやすくやってほしい。
- ・ 説明が多くてつまらない。(3名)
- ・ 授業のスピードなど調度良い。
- ・ 先生の話のすべてが勉強になり、先生のような人間性になりたい。
- ・ プリントの資料など、勉強にとっても役だっている。
- ・ プリントの書き込み以外にも問題演習をやった方がよい。授業に関係のない話が多い気がした。(1名)
- ・ 質問をもっとしてほしい。
- ・ 板書に比べ、自分のノートをもっときれいに書きたい。
- ・ 授業に寝過ぎなので努力したい。プリントにもう少し工夫がほしい。

地歴

- ・ 字が大きく綺麗で見やすくノートも取りやすい。
- ・ 説明がわかりやすい。
- ・ 板書をいっぺんに書くのではなく、説明しながら書いていってほしい。
- ・ 生徒が発言する場面が少ない。
- ・ 写真や資料などを豊富に用いており良い(3件)
- ・ 教室の外で授業をやりたい。

公民

- ・ この夏休み、テストに向けて復習する！！
- ・ 先生の授業はとても分かりやすい。真剣に取り組んでいた。
- ・ 他の学校に比べて、高校一年生の時から学ぶのが早いので不思議に思い、びっくりしました。(あと、一生懸命取りくみました。)
- ・ 内容は難しいんだけど、パフォーマンスとかたとえ話がなくてやりやすい。
- ・ 体を使う人じゃなく、言葉を使ってほしい。
- ・ 自分の取り組みが足りないのかもしれないが、授業の内容が分かるところと分からないところがある
- ・ 先生はがんばっている。授業も飽きなく楽しい。これからもめげずに頑張ってください！
- ・ 授業を始める前にどこを学ぶのかをはっきり提示してほしい。説明をはっきりしてほしい。

## 数学

- ・ 分かりやすい授業でよいと思う。自分も中学のときより絶対に今のほうが真剣に取り組んでいると思うからいいと思う。
- ・ 手抜きっぽい授業と覚えることがある。行き当たりばったりで問題を作っている感じがある。
- ・ 生徒同士の間で教えあっちゃいけないことが不満に思う。おしゃべりしちゃうときもあるけど、その時はその時で先生が判断して注意すればいいと思う。
- ・ 皆に発言をさせるところがよいと思う。
- ・ ほかの授業より楽しいし、なんかいい。ちゃんと数式とか覚えられてる(気がする)頑張るさ!!
- ・ 練習問題が多くて大変だけどけっこう分かりやすいし、頭に入りやすい。
- ・ 先生は生徒一人一人と接し、生徒の発言も大切にしながら授業を進めていることがわかりました。
- ・ もう少しゆっくりお願いします。
- ・ 授業がうるさいので少し怒ってください。

## 理科

- ・ 進むのが速いので、もうすこしゆっくり進めて欲しい
- ・ すごく難しくてなかなか理解できない
- ・ 生徒に話しかけ、飽きない楽しい授業にして欲しい
- ・ 教科書を使ってない気がする。教科書の図などをみるなどしてたまには教科書を使ってほしい。
- ・ 実験を前で見せるという考え方は良いと思う。
- ・ 遺伝楽しい。
- ・ プリントを10点満点で点をつけてくれるから、頑張ろうって思えて気が引き締まってよい。すごく充実した授業だと思う。
- ・ 女子1人だけど、授業を受けづらくない。楽しい。
- ・ とてもわかりやすい授業で関心ももてる(3名)
- ・ 順序立てて詳しく教えて欲しい、頭がついていかない
- ・ 実験・観察を多く取り入れて欲しい(2名)
- ・ すごくおもしろい、この授業は友人の誘いで取ったが、おもしろくて好きになった。授業中考える量が増えた。
- ・ 授業はとても分かりやすくおもしろい。教え方が上手で自分も楽しくできる。たまに寝てしまうので気をつけたい。
- ・ 他の先生は説明の時に、人物の写真などを持参していたので良かった。
- ・ 教室外での授業をしてみたい。
- ・ 答が分かっているけど、なかなか手を挙げられない。
- ・ 1時間全て1つの動物を観察したい。
- ・ 動物が好きになる。
- ・ 実験は楽しい。(3名)
- ・ 生徒参加型の授業をしてほしい(1名)

## 保健体育

- ・
- ・ あんまり好きじゃないけど、頑張ってると思う 2人
- ・ 先生の進め方は、みんなが努力出来るような授業の進め方だし、達成感があって良い
- ・ 何故授業評価ノートに名前を書く必要があるのか分かりません
- ・ 去年の授業は一生懸命取り組んだのにも関わらず、なぜか「3」だった。先生はその理由を教えてくれなかった。納得できなかったのもそういうことがないようにして欲しい。
- ・ ノートに書かなきゃ覚えられないというのは間違ってるらしいです。ノートに書くことが多すぎて大変やる気が失せるので、プリントか何かにして欲しいなと思った。
- ・ すごくリアルに頭に入ってくるからわかりやすい。自分のためになる授業で良いと思う。
- ・ この授業は自分の進路のために必要なものだから、かなり楽しく出来るから、やる気がでる。

## 芸術

- ・ わすれものが多く色々授業に取り組めないときもあったけど、先生が教えてくれて直ぐ追いつけるから楽しい。
- ・ 歌の時うるさいと思う。自分はがんばっていると思う、先生に言うことはなし。
- ・ リコーダーとかあまりうまくひけなかったから、練習が大事だと思います。
- ・ 効率が悪い。ひじについてピアノをひくのはどうかと思う。先生もうたったり、ふいたりしたほうが良いと思う。(おてほんみたいな)
- ・ 授業でみんなでリコーダーとかのえんそうする時とか分からない時もあるのにみんなできると思われるのがいやだ。できない人もいるのにみんなできるをぜんていに進められるから分からない時がある。
- ・ 先生一人で大変でみんなを指導しきれてないと思う、先生はがんばっているけどもう一人先生がいてもいいと思う。

- ・ 先生は一人一人と接してくれているので、より良い作品ができて良いと思う。
- ・ 教室外で授業をしたい
- ・ なごやかな雰囲気での授業ができる
- ・ 先生が複数いたらいい
- ・ もっとうまく字を書きたい
- ・ 工夫するのが難しいが楽しかった。先生と仲良くできた
- ・ なんかものを作るのって楽しいよね

## 外国語

- ・ Teacher of OC1 is very interesting.
- ・ 少しずつではあるが、単語も覚えられている。
- ・ もっと難しい方がよい。
- ・ 英語の歌を歌いたい。
- ・ 単語テストが嫌。せめて問題を減らして。
- ・ 中学でやったことはさっとやっていいと思うけど、初めて高校で習うことはゆっくりやってほしい
- ・ 黒板に書く時、ごちゃごちゃして見にくい、下の方に書きすぎて見えない、なまりが入って聞きにくい、でも英語は好き
- ・ 質問にきちんと答えてほしい。そうでないと聞く気もうせる。
- ・ 早口でどこをどうすればいいのかわからなくなる。訳をもっとゆっくり言ってほしい。もっとわかりやすく説明してほしい。
- ・ 授業を生徒と一緒に進めていくのは良いと思う。
- ・ ひとりひとり立たせて単語を言わせるのはやめてほしい。答えられないとさらに問題をだすのは良くない。授業中に生徒との私語はやめてほしい。授業に関係ない話は基本的にしなくてよい。テストやプリントの升目が小さすぎて非常に見づらい。テスト問題は長文を書かせる問題を少なくしてほしい。
- ・ 音読するところが嬉しい。
- ・ 90分あつという間の授業でした。
- ・ 答えるときに黒板に書かずに口で答えるだけのほうがやりやすいから、このまま続けてほしいです。
- ・ 英語は苦手だけど、先生の授業は怒らないし、いやみを言わないので頑張ろうと思えます。とても楽しいです。
- ・ もっとカナダラ表を覚えて話せるようにする。
- ・ 毎回発言して頑張っている。
- ・ 毎回楽しいです。
- ・ できればもう少し難しい問題もやりたい。

## 家庭

- ・ 基礎でもちょっとした作業がしたいです。
- ・ がんばって集中する！&先生の話しを聞けっ！！あと、作業がもう少ししたいです。あんまりプリント書いてばかりも。
- ・ 班を組んだりするのは嫌なので改善してほしい。
- ・ 「小・中学校で学んだことの応用」みたいで難しいですけど、頑張っていきたいと思います。
- ・ 教室が暑くてみんなが寝ちゃってます。僕もかなり熱いんで助けてください。
- ・ 授業がよくわからない。自分で努力して理解しないとダメだと思うので、頑張ります。
- ・ わかりやすく教えてくれるので、良いと思います。(3)
- ・ いろいろな料理を学ぶことが出来。役に立ちます。
- ・ もう少し実習をやりたい。
- ・ 先生の教え方も良いし。いつも美味しくできるし。楽しく料理出来るから好き
- ・ おいしかったり、おいしくなかったり。でも好きな授業です。
- ・ いろいろな場所を見学でき、将来に役立つからよい。
- ・ 実際に見学に行けるので、とても楽しい。
- ・ 調理実習をもっとやりたい。
- ・ 黒板での説明がわかりづらい

## 情報

- ・ 先生は進むのが少し早いけど判らないときは付き添って教えてくれる。
- ・ パソコンだけやりたい。情報の理論はいらない。
- ・ 作業に追いつけません。配慮してください。このままでは授業を受ける意味がありません。
- ・ これから社会人として生きていくのに必要な技術であり、大切なものだから、しっかり学習したい。
- ・ コンピュータの技術力を高め、検定を受けたいと思っている。

## 8. 教科ごとの意見

### 項目ごとの他教科との比較・理由・対策

#### 国語科

「授業の進め方」と「生徒への接し方」の項目が厳しい結果となっている。発育盛り、又小学校以来、勉強という言葉に直結してきた教科であることに理由の一つがありそうだ。対策としては、座学、あるいは時間割の中に同様の教科を連続させないのも一法かと思う。

「生徒主体の授業の工夫」の評価が低い。じっくり考えさせる時間を多くしてみたい。

#### 地歴・公民科

「生徒主体の授業の工夫」の項目をのぞけば、“とても当てはまる”・“やや当てはまる”の割合が比較的高い評価であった。

地歴・公民科の授業は説明する内容が豊富で、生徒に調べさせたりする面などはあるものの「生徒主体の授業の工夫」の項目はやはり評価がやや低くなっている。

これについての対策は今後も検討を続けたいと思うが、生徒主体の部分を増やすことで内容が進まなくなるという懸念もあるのでなかなか難しいと思われる。

#### 数学科

「授業の充実感」、「説明の分かり易さ」及び「生徒主体の授業の工夫」の項目について、“とても当てはまる”および“やや当てはまる”の割合が低い結果となっていた。

教科の性質に加えて、抽象的な思考になっていない生徒が多いことから、充実感を感じる授業や、生徒が主体となって進める授業展開は難しいと思われる。

#### 理科

教科の性質上、やむを得ない部分もあるが「生徒の参加意識」の向上については、実験・実習を増やして対応したい。

#### 外国語科

実技系科目をのぞいた主要5教科の中では、ほぼ地歴に次いで良い評価を得ている。ただその中で、「授業の準備、教材の工夫」と「説明の分かり易さ」の評価が低い。対策としては、教材等を工夫しわかりやすい授業を目指す。

#### 家庭科

内容が違うので他教科との比較は無理がある。

実習教科でもあるため、生徒主体の授業はできている。

授業の進め方、説明の方法等については改善し、理解しやすく満足度の高い授業を目指していきたい。

#### 情報科

全体的に良好である。ITや少人数制、情報Aを履修後にパソコン活用・表計算等に進むというような段階的な選択が効果を上げていると思われる。

コンピュータの技術講習に追われることの無く、全教科の基盤としてコンピュータを活用できるような授業構成を考えていく。

## 総合的な学習の時間

評価は普通だが半期間行った効果は大きい。積極的に学校見学へ参加し、志望動機の下書きをすませ進路先の比較をするなど科目の目的は十分に果たしたと思っている。(3期)

他の教科と異なり、元々、生徒本人が取り組むものなので、そのような方向に持っていけるようにしたいと思う。(4期)

将来の進路に向けてしっかりと考えている生徒は少ない。自分のことをよく考えるように持っていけるようにしたい。(5期)

## 教科内での科目ごとの比較・理由・対策

### 国語科

どの教科にも「おもしろさ・楽しさ」からの視点による評価が見られる。他者に表現する学習や文法など、従来より苦手とされる科目等に厳しい評価が出されるようだ。内容の「大切さ」(あるいは楽しいという言葉にはなじまないが「ためになる」)など、多様な価値観に気づかせるのも対策としてあげられる。

プリント形式での「授業の進め方」の評価が高い。今後もこの方法で進めたい。

### 地歴・公民科

特に科目よっての大きな違いはないと思われる。若干の違いについてであるが、選択する生徒の意識の違いが大きく関係しているように思われる。特に2年次・3年次の生徒が選択している科目の中には単位数あわせによる選択者も多数見られるので、学習意欲の低い生徒が集まっていて結果が数字にやや表れているように思われる。

この対策としては、学習意欲の低い生徒にもレベルを下げて興味を引くような授業を行うことも考えられるが、一方では学習意欲が高く、レベルの高い授業を要求する生徒もいるので難しい面がある。

### 数学科

必修科目(数学)を受講する生徒と、2年次・3年次で選択できる科目を受講する生徒とでは意識の違いがあるため、理解の差(説明の分かり易さ)や充実感の差が生まれるのは必然的である。

なお、選択科目の数学については、ある特定の講座について授業の改善を求める意見が集中した。例題をもっと丁寧に解説してほしいなど、具体的な要望が多かったので、今後の授業展開を改善していきたい。

### 理科

科目によって、生徒の人数の差がある。人数が多い科目については、どうしても「講義」の比率が高い授業を進めざるを得ない。

### 外国語科

評価の低い理由を検討し、今後の対策を立てていく。

### 家庭科

系科目は選択であるため、生徒の満足度は必修科目よりも高い。しかし必修科目も魅力ある授業にするために、授業展開を工夫し教材・教具・内容を工夫したい。

## 情報科

情報 A は必修であり、他教科は自由選択であるから、自ずと好きで得意な生徒が選択しているので単純比較は難しい。

作品評価については難しい面がある。ポイントを明確にして作品を作らせることが重要となるだろう。基礎知識・技術操作、そして創造性と幅広い観点を平均的に評価することが求められていくだろう。

## 総合的な学習の時間

年次で内容が相当異なっているので比較は意味がないと思う。

## コメントの分析

### 国語科

いろいろなコメント中、率直な意見？（生徒とはいえ、義務教育 9 年間で卒えた人間、人間性が疑われるような記述）も、まま散見される。

「説明だけだと眠くなる」「質問をもっとしてほしい」というコメントがあった。もっとメリハリのある展開を求めているようだ。飽きさせない 90 分授業は難しい。

### 地歴・公民科

教科の特性で板書する量が多かったり、説明する時間が長かったりする部分を変えるのは難しい。生徒の興味を引くような授業を今後も続けていきたい。

### 数学科

問題を解く時間を長くしてほしいという要望もあり、授業の（時間的）効率を上げるためプリントを作成して配布する一方、プリントよりノートの方が良いという意見もある。より多くの生徒が満足するためには、さらなる工夫を要する。

生徒自身の「態度姿勢」の評価が比較的高いにもかかわらず、「クラスのほとんどが話を聞いていなくて、先生が何度も説明したりしているのが長いので、授業の進行が少し遅い。」「授業うるさい、先生怒ってください・・・(略)」などの意見が出されている。

### 理科

学習意欲の向上が見られる。市販の問題集を副教材として使用しても、生徒がそれをこなせるだけの力がついてきたように感じる。

### 外国語科

各自が生徒のコメントを真摯に受け止め対応していく。

### 家庭科

記名式・無記名式にはそれぞれ長所・短所がある。

内容の妥当性に疑問を感じるコメントもあるが、（ほとんどは真摯な意見であるので）今後の授業改善に役立てたい。

## 情報科

スキルの差が大きく、生徒によっては「早くてついていけない」という意見がある一方、「情報」という教科の必要性・重要性を理解しており積極的に取り組もうという姿勢も見られた。

## 総合的な学習の時間

最初から進路を自己開拓する意識の無い生徒を半期間で全員目を開けさせることは難しい。相当苦痛だった生徒も多少はいただろう。(3期)

やる気のあるものと無いものとの間に差があり、このような結果となった。クラス単位でないことも原因である。(4期)

よく勉強する生徒と、取り組みが足りない生徒の差がある。

## 9. 後期に向けて

すべての教科・科目で授業改善に取り組む。授業一つ一つの心がけで可能である。

また、すべての教科でこれらの結果を受け、公開授業・研究授業等の取り組みを行う。

すべての科目で行うのが理想だが、時期的な問題があって難しい。授業を担当する一人に任せるのではなく教科内のすべての教員で役割分担をして研究授業に望む。その際改善したいテーマを絞り、どのようにすれば改善できるかを教科内で話し合う。そこで出たアイデアを元に、教案を作成し、授業を行いそれを記録する。授業前後に生徒に向けてアンケートをとり、効果を調べる。テーマについてはその教科の弱いところを中心に検討するが、「生徒主体の授業の工夫」については全体的な取り組みでもあり是非盛りくみたい。